



「パパ逃げちゃダメよ」左から小平、長女康子、次女マリ子

れていました)に向かって勉強ばかりしていた事です。食事の時間になると私たちはテーブルの上の書類をちょっと横に動かし、テーブルの隅で食事をとっていました。

父が研究のため渡米したので私はアメリカで育ち、アメリカで生活した17年間は日本語が一切出来なかったのですが、一つの単語だけは記憶に残っています。それは「怠けもの」と言う言葉でした。父はよく「ナマケモノになりたい」としばしばつぶやいていました。母に聞いたら英語では「sloth」と言う動物だと教えてくれて、今と違ってすぐネットで調べられない時代でしたので、百科事典をひいて「なるほど」と思いました。ナマケモノになりたい、とよく言っていた父はナマケモノに似て動くことが大嫌いな人でした。私はよく短足だった父に「足は必要ないのね」とからかったことも憶えています。

ナマケモノは何週間も動かず木にぶら下がっていますが、父は多分台所の椅子に何週間も座って動かさず勉強したかったのではないかと今になって思います。

アメリカでの生活が長かったのですが、英語でほとんど会話が出来ず、全く社会的ではありませんでした。人とお付き合いするよりは勉強をしている方が好きでした。アメリカではよくパーティーをしましたが、客が帰ると母に「何で招待したんだ？時間の無駄だ！」と愚痴をこぼしていました。

いわゆる「夜型」の人で朝の5時過ぎまで勉強していたので、普段は昼過ぎまで寝ていました。「お母様は何をしていらしたのですか？」と聞かれることが多いのですが、母は父の為にのみ生きていたので、父と同じ時間帯に寝起きして父の要望に全部応えていました。両親ともに昼過ぎまで起きてこないの、姉と私は朝食を食べずに小、中、高校へ通ったのを覚えています。

母は料理、運転、電話番号、子育て等の家事は父に一切期待せず、一人で全部こなしていました。母はしばしば「私は女中じゃないのよ！」と愚痴をこぼしていましたが、父は大変に幸せな人だったと思います。縁の下の力持ち、とよく言いますが、私は英語の「Behind every great man there is even a greater woman!」の方が我が家に当てはまるような気がします。父は母のお陰で勉強に集中できたのではないのでしょうか。

数学以外に父が関心を持っていたのは音楽でした。ボルチモアに住んでいた時、毎週素晴らしい音楽会に連れて行ってくれました。その当時の世界一流の演奏者を沢山聴けたので、姉と私は音楽に対して理解を深めることができ、父に感謝しています。

私は4歳からヴァイオリンを無理矢理に習わされていました。姉は父と同じ楽器のピアノでしたが、どういうわけか私はヴァイオリンに決められてしまったのです。父はとても厳しく、練習をしなないと怒りましたが、父が家で勉強している時は練習の音が勉強の邪魔になるので、父が大学に教えに行っている時に練習を済ますように言われていました。在宅中に練習すると「うるさい」と言われるので、私は練習が異常に嫌になったのです。日本へ「帰る」話が出た時、私は「日本」という国も全く知らなかったので「帰る」という感覚も一切なかったのです。しかし、「帰る」なら一つ条件をだしました。「日本に戻るならヴァイオリンは死ぬまで触らない」と言って帰国しました。しかし40歳になって、急に又ヴァイオリンを弾きたくなくなりました。昔の練習がいまになって役に立ち、友人と一緒に弾き、時々ホームコンサートをし、とても楽しんでます。父と母にいまになって心から感謝しています。

謹厳実直な父でしたが、時々研究ノートの片隅に落書きをしていたこともあります。特に、知り合いの人で特徴のある顔をした方がいらっしやると、すぐ動物になぞらえた似顔絵を描いていました。数学者として生活できなかったら漫画を描いて暮らしたのではないのでしょうか。

機嫌が良い時には時々一緒にゲームをしたこともありましたが、しかし、負けず嫌いで負けるとすぐ悔しがり、止めてしまったのを覚えています。私は父が意外と子供のような人だと思ひ、こっそりと笑っていました。

父は読書も大好きでした。ずば抜けて頭が良い人だったと思いますが、もともと無口なうえに英語もあまり話すことができなかったため、私にはあまり口をきいてくれませんでした。父がその豊富な知識を私に伝えてくれなかったことはとても残念に思っています。脳の中は多分百科事典のようになっていたと思います。

帰国してからは優秀な学生を沢山育ててとても嬉しそうでした。言葉も自由に話せて、心が通じ合う優れた学生に恵まれ、最後の生涯は非常に幸せだったと思っています。

この展示会を企画した学習院大学史料館に厚く御礼申し上げます。

岡マリ子(次女)

平成27年度学習院大学史料館ミニ展示 生誕百年記念 「小平邦彦一代数幾何学の巨人」

昭和29年(1954)、日本人として初めてフィールズ賞を受賞した小平邦彦は、東京帝国大学卒業後、戦争中の困難な時代も研究を続け、戦後はプリンストン高等数学研究所など海外で活躍しました。帰国後は東京大学、学習院大学で教鞭をとり、数学界に多大な貢献をしました。今回は所蔵資料のうち小平先生のイラストなど多様な資料を展示いたします。

主な展示資料 フィールズ賞メダル
戦前の自筆ノートなど

展示期間 平成27年10月15日(木)～30日(金)
月～土 9時30分～17時30分

休室日 日曜日

10月16日(金)・10月17日(土)

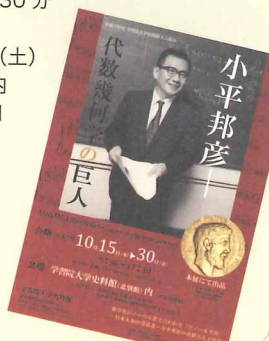
展示場所 学習院大学史料館(北別館)内
東京都豊島区目白1-5-1

電話 03-3986-0221
(内線 6569)

FAX 03-5992-9219

*入場無料

*中島匠一先生によるギャラリートーク
10月20日(火)、23日(金)15時～



【関連講座】第77回学習院大学史料館講座

「役に立つ数学・楽しい数学」

日時: 10月30日(金) 18時～19時30分

会場: 学習院大学中央教育研究棟 302

講師: 中島匠一氏

(学習院大学理学部数学科教授・
学習院大学史料館研究員)

※入場無料、申込不要



ミュージアム・レター第30号

2015年10月15日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(3986)0221

内線 6569

FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History

学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>